

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A 名	静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校PTA
学 校 名	静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校 ☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱
設 置 部	☐ 幼稚部 ☐ 小学部 ☐ 中学部 ☒ 高等部
全校児童・生徒数	54人

1. 使用状況

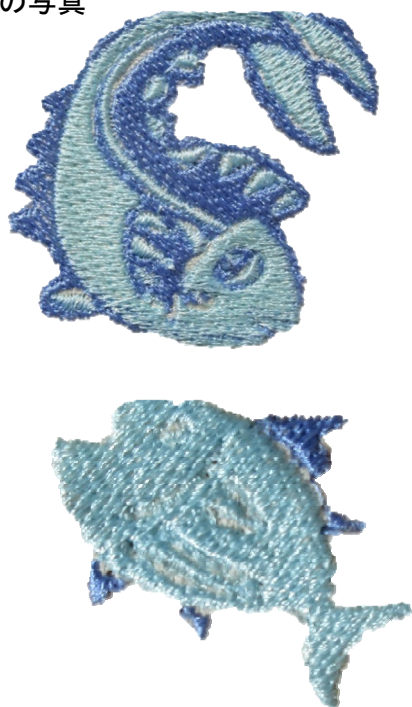
寄贈物品名	刺繍データ作成ソフトウェア
使用学年及び人数	高等部縫製班1、2、3年生 12人
使用頻度	週に3回程度
使用状況	・縫製班では、地域の古民家カフェからの依頼を受けて、布製品(トートバッグ、ヘアゴム、ファスナーポーチ)の製作を行っています。 ・製品化するにあたって、タグやワンポイントの刺しゅうを施すことで付加価値が上がるため、本校ではオリジナルのロゴやイラストを使用しています。 ・本校には、刺しゅう機が2台ありましたが、搭載されている刺しゅうのパターンや大きさが画一化されており、生徒の製品づくりの主体的な参加が課題になっていました。 ・開校当初に作成されたロゴを製品化するための方法を模索している中、ソフトウェアをいただき、導入することになりました。 ・主に作業学習の時間に、縫製班の生徒が布製品(トートバッグ)に刺繍をするために使用しています。
物品の使用による変化や効果	・生徒が思い描いた刺しゅうのイメージを完成度の高い形で実現することができるようになりました。 ・刺しゅうの大きさを自由に設定することができるため、製品づくりに取り入れやすくなりました。 ・生徒が刺しゅうの色味をいくつか考え、教師や友達に提案を行い、トートバッグのワンポイントの刺しゅうを決定しました。 ・オリジナルの刺しゅうが入ることで、これまで本校の製品を置いていなかったお店にも取り上げていただけるようになりました。そのことが生徒の製品づくりの励みとなり、生徒が直接店に出向いてお客様の要望を聞いて交渉する学習場面では、意欲的な姿が見られました。
今後の活用の見通しや課題	・企画段階から生徒が参加する製品づくりを行うために、刺しゅうの柄を考える活動場面を設定していきたいです。 ・生徒の考えた刺しゅうを製品に取り入れ、事業主や個人等受注先の幅を広げていきたいです。 ・刺しゅうのデザインからデータ化する際に、画像補正をするのに時間がかかったため、取り扱いについて簡単な引継ぎ資料を作成し、継続的に使用できるようにしていきます。
その他希望や所感など	・刺しゅうミシンの寄贈をしていただきありがとうございました。焼津分校らしさをイメージした製品づくりができるようになったため、販路を広げることができ(焼津市内のカフェ)、生徒の作業に対する取組みも積極的になりました。今後も活用させていただきます。

2. 活用の様子

刺繍を入れている作業風景の写真



刺繍の写真



焼津分校開校10周年を記念して作られた
カツオのイラストを刺繍する予定です。

バッグの完成写真(刺しゅうは、練習中です)



オリジナルのトートバッグを作っています。
2月に納品予定です。